

94回目の柳条湖事件のチラシ配布

9月18日の木曜日、11時～12時まで天満屋アリスの広場前（表町）で、標記のチラシを配布しました。（この新聞に同封しています）

自分でチラシの内容を見ても、こんなに時間がたっているのだと改めて思いました。特に若い人には現実感のない内容かもしれません。でもこういう時代だからこそ、

歴史をできるだけ事実に基づいて知ることが大切なのだと思います。

同じ場所でも、国連のUNHCR（国連難民高等弁務官事務所）の若者たちがチラシと資料を配っていました。

こちらは私と稲葉さんです。後期高齢者と20代30代の若者です。この対比に、我ながら日中の置かれている現状を考えさせられました。



日中

おかやま

題字 萩原田 親

No. 1055

2025/10/1

日中友好新聞

発行所

日本中国友好協会

〒111-0053 東京都台東区浅草橋3-2-3

電話 03(5639)3140(代)

FAX 03(5639)2141

http://www.jcfa-net.jp

E-mail: jcfa@jcfa-net.jp

振替 00110-1-21176

日中友好協会

岡山支部

〒705-0034 岡山県北区下伊福

西町1-50 民王会館1F

TEL/FAX 0861258-1806

日中友好協会

倉敷支部

〒713-8031 倉敷市福部町32461-45

TEL/FAX 0861415-7806



でもお互いにエールを交換しました。“体に気を付けて頑張ってください”と言われましたよ。ありがとうございます！

中国百科検定に向けた学習会

9月21日14時から岡輝公民館で、第18回中国百科検定に向けた学習会をした。参加者は4人だった。

8月に続いて、カードを使って中国の省名、省都を覚えよう、という内容だ。前回、省名省都略称と欲張ってみたら、1ゲームに30分くらい時間がかかったので、今回は省名と省都にしぼったカードを使った。1ゲームが15分以内で終わるくらいになった。

また、今回はカンニングペーパーを見ながらカードを合わせていたが、それも1ゲームの時間がかかりすぎる原因だったので、省都のカードの端に省名を書き加えた。



わかりやすくなったが、これみんなちゃんと覚えてくれてるかな……という心配が発生した。

合わせたカードを出すときには、省名と省都を言う、とかそんな感じのルールを加えたほうがいいのかもしいい。

小川涼子



日中友好協会岡山支部ホームページ
<http://rizhongyouhao.iinaa.net/>
 メールアドレス
nicchukayama@yahoo.co.jp



常州への旅⑬ 真田紀子

私たちが宿泊するホテルは、蘇州の旧市街にありました。歩いて観光地を巡る絶好の場所にあったのです。やっとたどり着いてその夜はおしまいです。

翌日朝から、近くを散歩してカフェで朝食をとります。ホテルにレストランはありません。

その後、劉老師も蘇州にやってきました。彼女たち（小川さん、田中さん、劉老師）のもっともやりたかったこと、漢服に着替えて観光地を巡ることです。そのチャレンジの最初がメークから髪型、衣装まで揃えているお店について、まず衣装を選ばなくてはいいません。

写真1



そこはプロですので、それぞれに似合いそうな衣装を選んでくれました。私はまずお化粧をしてもらいました。ファンデーションなど塗ったのは何年ぶりでしょう、それもあり厚く塗ります。お任せするしかあ

りません。次は髪の飾りつけです。ショートヘアなので髪を少量束ねて、タボを付けて髪を増量します。そこへ髪飾りの簪などを付けるのです。完成品の写真1です。小川さんも田中さんも劉老師も出来上がりました。写真2



ちょうどお昼になりましたので、老師の友人たちが待っているレストランまでバスに乗って移動します。通りすがりの子供たちから“很漂亮”と声をかけられました。“謝謝”

そこは、麺類のお店でした。少し旧市街から離れた場所だったので、私たちの漢服姿は目立ちます。そこは旅の恥はかき捨てです。知らない人達になんと思われようが、気にならないものですね。

そこから又バスで蘇州の旧市街に戻り、観光地を巡りました。蘇

会費請求業務

9月6日(土)10時～岡西公民館にて、2025年10月～2026年3月までの会費を前納していただく請求書を作成しました。担当は真田支部長と青木理事です。

今日の新聞に同封しますので、皆さまご協力よろしくお願いいたします。



州にはかつての有力者が作った庭園がたくさんあります。庭園の名前は覚えていませんが、池を周遊し、岩山を配した形は共通のようです。蘇州のこの区域は世界文化遺産に登録されています。



15年戦争資料センター第8回研究会

ドラキユラ伯爵の観光人類学―本物らしさ―を売る

標記の研究会が、9月20日(土)の14時から岡西公民館にて開催されました。

タイトルにひかれて参加してきました。

ルーマニアにあるブラン城は「ドラキユラ城」として多くの人を集める一大観光地となっているようです。

ところが、『吸血鬼ドラキユラ』のモデルは、15世紀のワラキア公国君主ヴラド3世(ヴラド串刺し公)とされていますが、歴史上このブラン城との接点はほとんどないそうです。

『吸血鬼ドラキユラ』の「聖地巡礼」としての観光地として、ルーマニアの中で交通の便利が良く、見栄えのいいブラン城のほうが有名になってしまった。本当かどうかというのは、重要なファクターではないのかもしれない。

もともと、吸血鬼という仮想の話(1879年の小説)に実在の人物を重ねることに無理があるのだから、城がヴラド3世とかかわりがあるうがなろうか、観光客には問題がないということなのでしょう。観光にとって「本物らしさ」とはなんでしょうね。

真田紀子



次回の新聞送付作業は10月14日(火)午前10時半から民主会館1階で行います。前回お手伝いくださった方です。

井田 河真 飼